昨年は夏の暑さが過ぎて一息ついた11月に記録的に早い大雪を観測し，鉄道総研のある東京都多摩地方でもまとまった積雪がありました。秋らしい気候の日が長く続かず，急な気温の変化で体調を崩された方もいらっしゃったのではないでしょうか。

さて，今月号は「鉄道施設の診断技術」を特集しました。人間の健康維持に定期的な検診が欠かせないように，鉄道施設を長く使い続けるためには，異常の予兆を検知する診断技術が不可欠です。今回の特集でも，従来から行われている実績のある手法に加え，UAV（無人航空機）やセンサーネットワークなどを活用した最新の検査技術をご紹介しました。医療における検査と同様に構造物の検査技術も日進月歩ですが，最新の技術動向を踏まえつつ，引き続き検査技術の高度化に取り組んでいきます。今回の特集を日々の施設メンテナンス業務の一助としていただければ幸いです。

なお，今回で鉄道技術用語辞典よりの連載を終わらせていただきます。永い間のご愛読ありがとうございました。

来月号では「鉄道のヒューマンサイエンス」と題して，ヒューマンエラーの分析や異常時対応，駅や車内の環境改善，さらには鹿と車両の接触事故対策まで，ヒューマンサイエンスに関わる研究成果を幅広く特集します。どうぞご期待下さい。（A.T.）